第 2 回未来会議（全体会）　議事録

日時：令和 3 年 4 月 18 日（日）13:30～16:20

会場：西集会所

出席者：

須都　紘（会長）、伊藤　智子、梅本　慎二郎、中谷内　政之（以上　副会長）、
鎌田　卓（事務局長）、鈴木　豊（書記・広報）
田口　信義、中世古　昭一、黒部　實、山田　勲、須田　健一、野津　拓也、黒田　勝行、
福家　稔、谷猪　富貴子、山田　修、渡辺　昇　（順不同、敬称略）
（欠席：蔵田　かほり（会計）、山地　祐輔）

配布資料：

① 議題
② 鹿ノ台中期まちづくりビジョンについての提案（各構成員）
③ 未来会議の広報について（案）
④ 鹿ノ台ぐるぐるバス運行計画（案）V4

主な議事

須都会長より

・コロナ渦のなか感染対策に十分留意し、時間内に終わるよう進めていきたいので、皆さんのご協力をお願いしたい。
・鹿ノ台中期ビジョンについては、11 名から提案をいただいた。時間の制限から全員には発表していただけないが、5 名の方から提案を受け、質疑応答も行いたい。
・この会議に対する住民の皆さんの関心と期待が高いことを受け、会議の活動状況を定期的に発信していきたいので、のちほど提案する。
・住民の皆さんの声を拾い上げるためにアンケートを行うという案も出ており、よく検討していきたい。

鹿ノ台中期ビジョンの提案

※以下に各構成員からの提案を概要で示す（詳細は「鹿ノ台中期まちづくりビジョンについての提案（各構成員）」を参照

鈴木構成員より

・日本の人口は 80 年後に半減する。何もしなければ鹿ノ台も同様に人口が激減する。鹿ノ台をゴーストタウンとしないためには、人口を減らさない取組みが最重要である。
・そのためには現役世代に「引越し先」に選んでもらう必要があるが、どのような取組みが

鹿ノ台を引越し先に選んでもらうことに効果的かは、すでに鹿ノ台を選んで住んでいる私達にはなかなかわからないので、地域の不動産事業者への確認などが必要。

・いろんなことにいっぺんに手を付けるのは難しいので、何をすべきかが見えてきてから改善を進めるのがよい。

・このような改善を進めるためには収益の確保が必須であり、法人化して収益事業に踏み込む決断も必要となってくるのではないか。

山田（修）構成員より

・鹿ノ台の住環境整備にこれまで尽力されてこられた方々に敬意を表する。一方で鹿ノ台周辺の宅地開発やバイパスの予定もあり、これらの影響についても未来会議で話し合う必要が生じるかもしれない。

・持続可能な世界の実現のため、SDGs の目標達成に向けた取組みが始まっている。我が国でも全国の自治体で SDGs が推進されている。

・鹿ノ台においても、この流れに即した具体的な取り組みとして、メガ・ソーラー発電を検討してはどうか。

・メガ・ソーラー発電には、設置場所や資金調達方法、その他の技術的な課題もあるが、転入者の促進、災害対応、環境問題への意識高揚、資産形成のメリットがある。

・自前スタンド設置や近隣のガソリンスタンドへの売電により、鹿ノ台における SDGS の取組みを PR でき、メガ・ソーラー見学に誘導することも可能となる。

黒田構成員より

・我が国は今後人口減時代に入り、長寿リスクも増大する。これらを背景として、認知症やフレイル（虚弱）の増加が見込まれる。

・鹿ノ台でも同様に少子高齢化が進み、商店街や学校の運営も厳しくなることが想定される。自治会活動の維持も困難となってくる。

・これらの課題に対し、問題点を整理し対策を検討するため、①少子化対策分科会、②高齢化対策分科会、③デジタル化対策分科会、④調査・財源・渉外（行政等）対応分科会を設置して、課題の検討と対策立案を行ってはどうか。

・また、地域住民に IT（PC、スマホ、タブレット）活用を普及させる取組みにより、自治会活動の向上につなげたい。

・このほか、近隣でゴミ出しなどの困りごとを支援する仕組みを作る。

・これらに総合的に取組むことにより、「夢のスマートタウン鹿ノ台」を実現していく。

梅本構成員より

・子育て世代の若者が集う街、選ばれる街を中長期目標として、下記に取り組んではどうか。

1. 大阪のベッドタウン機能だけに留まるのではなく、自治会が企業の実証実験を受け入れるなどして企業誘致を進め、周辺に魅力的な雇用を創出する。
2. 精華町が順調に発展していることから、鹿ノ台から精華町に繋ぐ道路を作る。ただし、治安の悪化などのデメリットをしっかりと分析することが前提。
3. 鹿ノ台が、自然が豊富でありながら大都市に近接している場所であり、治安も良く

子育てもしやすいことなどを、移住検討者に届くように発信する。

4. 地域活動を通して若者が様々なことに挑戦できる街として、例えば納涼祭に地域の若者ブースを出店する取組みなどを行う。

鎌田構成員より

・鹿ノ台が高齢化に突き進むことは間違いない。この事実に対応していくためには、大きなことに目を向ける前に、当然やっていて当たり前の身近なことからしっかり取り組んでいくことが最も大切である。

1. 街灯や挨拶で街を明るくし、犯罪抑止や防災訓練の実施により、安全・安心なまちにする。
2. 高齢者に対する個別の移動手段の確保、老人会や公園整備などによる集まれる場所の確保、困りごとへの支援により、交流・支え合いのまちにする。
3. 緑溢れるまちづくり、公園の魅力向上、納涼祭や地元商店街の活性化、小型 EV 通行帯の確保、雑草取りなどにより、快適な環境のまちをつくる。

・空き家／空き地対策は大切で、購入意欲を促進するために敷地内外の雑草取りが有効。

・中央公園、運動公園の魅力を向上させ、納涼祭に昼間から来てもらえるようにすると、鹿ノ台にとって大切な商店街の活性化にもつながる。

・運動公園は対価を得て管理費用の一助にすることも検討してはどうか。

意見／質疑

・様々な意見が出た。これらを未来会議でどう整理していくかが、大きな課題である。

・テーマとして、身近な課題と、少し先の課題が出てきた。身近な課題は自治会でできるので、未来会議は少し先の課題を取り扱うべきではないか。

→ 身近な課題に対応できていないのが現実。そこができて初めて、その次が見えてくるはず。

・課題はいろいろある。順番にやるのではなく、同時に取り掛かりたい。

→ 未来会議が全部やる必要はなく、仕分けをしたらよい。

・若い世代からは自治会活動は義務と思われ、敬遠されている。未来会議はこれから何かできるというきっかけとなる会議。早い段階から住民の皆さんの思いをシェアできないかと考えている。例えばあすか野では地域づくりのノウハウがある生駒市担当課とコラボして、寺子屋などの成果を出している。同じような取組みが可能ではないか。

→ あすか野の取組みは当初は盛況であったものの参加者が減っている状況で、成功しているとは言い難い。新しい動きも出てきており、話が聴きたければいつでも聴ける。

・メガ・ソーラー発電については、「いこま市民パワー」がすでに活動を始めている。スペースは工夫次第で何とかなると思う。

・議論は出尽くしていないが、まだ発表されていないビジョンもある。5 月の会議で継続して検討していきたい。

未来会議広報紙「みらい」（仮称）の提案

・未来会議は、中長期的な目線に立って「鹿ノ台の将来を考える」会議体であり、新規事業の起点となる可能性も高い。積極的に情報を発信し、検討の経過を理解してもらうとともに、意思決定のプロセスをしっかり納得してもらうことが重要だと考え、広報紙「みらい」（仮称）を定期的に発刊したい。

・また、自治連合会 Web サイト及び連合会事務所で、未来会議の資料（個人情報を含む一部の資料を除く）及び議事録を閲覧可としたい。

→ 承認。速やかに「みらい」第 1 号発行の準備及び Web サイトの整備を進める。

鹿ノ台コミュニティバス計画（案）について

・鹿ノ台コミュニティバス特別委員会委員より、資料「鹿ノ台ぐるぐるバス運行計画（案）V4」により、説明。

計画の概要（詳細は運行計画（案）参照）

・高齢化が進む鹿ノ台は、坂道がきつい住宅地でもあり、高齢者にとって買い物や通院がしにくいため、家に閉じこもりがちで交流が少なくなる、などの課題がある。

・これを解決するために、鹿ノ台を 8 の字に巡回する「ぐるぐるバス」の運行を計画した。運賃 100 円として自治会員に利用有無のアンケートを取った結果に基づき試算すると、自治会負担額は年間約 286 万円と見込まれた。

・自治会負担額が多額となるため、別の方法を検討することとし、生駒市地域公共交通活性化協議会のテーブルに載せ、「たけまる号」として検討を継続した。

・生駒市から示された運行計画は、鹿ノ台を巡って学研奈良登美ヶ丘駅まで往復するルートで、運賃は 190 円（他のたけまる号は 200 円、自治会が 10 円負担）となる。

・赤字額は生駒市が大半を負担するため、自治会の負担は年間約 49 万円となる。

・7 月頃までに住民の総意をとりまとめ、同意が得られたら生駒市に回答し、生駒市において令和 4 年 9 月から実証運行が開始される予定である。

意見／質疑

・自治会として年間約 49 万円の支出増になるが、他の事業に影響することはないのか。

→ 自治会経費の削減努力を行う他、協賛金対象企業の拡大や車内広告収入の増で対応できると考えている。

・今年度の自治連合会予算は、緊縮予算を組んで 23 万円の黒字であるが、この支出が加わると 26 万円の赤字となる。資源物個別回収事業の減収と、自治会からの退会者が続いていることの影響が大きい。自治会加入者を増やす施策を打たなければ、委員会等への助成金の減額などの措置が必要となってくる。現実は厳しく、バラ色だけの話はできない。

→ 市のゴミ回収に資源物を出してしまう家庭もある。資源物個別回収事業への協力を改めて呼びかける必要がある。

・乗車体験なしに住民投票をやっても賛成が多いとは限らない。将来の技術トレンドを考えて、未来会議のメンバーから意見をいただければと思う。

→ 未来会議としてはほかに資金が必要な事業も考えていく必要がある。個々のメンバーとして意見を表明したが、会議として賛成と決めたわけではない。

・財源の確保が大きな課題である。

・高齢者以外はこのバスを利用しないと思うので、自分たちに関係のない事業にお金がかかると感じてしまう。若い世代を巻き込む方策を考えていくべきである。

・当初の自治会案では鹿ノ台の中をぐるぐる回るルートであった。学研奈良登美ヶ丘駅まで延伸することで、奈良交通が既存のバス便を減らすなどの影響はないか。

→ コミュニティバスの事業者候補としてはルートの延伸は折込み済で収支計算が行われている。

・介護施設などで過ごすため、昼間は自宅にいない高齢者が増えている。家の前まで来てもらえるなら、荷物を持って乗れるメリットがある。コミュニティバスは家の前で停車できるのか？

→ 定時・定点運行の路線バスなので、希望者の家の前まで行けるわけではない。スマホで運行状況を見ることは可能かもしれない。

・事前の懸念はいろいろあるが、実証運行まで進まないと便利さや課題がみえてこない。実証運行をして、検証・評価をすることが大切。

・白熱した議論が行われているが、時間の都合もあり、ここでいったん議論を止め、次回の継続案件としたい。

その他

・本日、ECOKA オープンガーデンが奈良 TV の取材を受けた。5 月 6 日(木)放送の「ゆうドキッ！」中、17:30～18:30 の間で 9 分ほど放映される予定。

次回

日時

5 月 16 日（日）13:30 - 15:30

会場

西集会所

※幹事会は 5 月 8 日（土）9:30 - 11:30

主な議題（案）

1. 中期ビジョンの提案（今回発表できなかった構成員）
2. 鹿ノ台コミュニティバス導入について（続き）
3. その他

以上